第１分科会

テーマ：ＬＤ、ＡＤＨＤおよび自閉症等の理解

《ＬＤについて》

病弱教育研究部研究員
海　津　亜希子

この講義の流れ

Ⅰ．まずはじめに・・・「あなたはどのタイプ？」
Ⅱ．ＬＤへの支援の前におさえておくこと（アセスメントの重要性）
～「国語」のつまずきを例に～
Ⅲ．つまり，ＬＤとは
Ⅳ．ＬＤへの支援を考える
Ⅴ．さいごに・・・

ＬＤとは？

ＬＤ（学習障害）については，平成11年に文部省（現，文部科学省）より「学習障害児に対する指導について（報告）」が公表されている．その定義が以下である．

「学習障害とは，基本的には全般的な知的発達に遅れはないが，聞く，話す，読む，書く，計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである．学習障害は，その原因として，中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが，視覚障害，聴覚障害，知的障害，情緒障害などの障害や，環境的な要因が直接の原因となるものではない」

ＬＤは，主に学習面で様々なつまずきを示す．漢字を読むことは学年相当以上にできても，書くとなると難しく，平仮名ばかりの作文になってしまったり，計算問題は得意でも，図形問題になると手が出なくなってしまったり・・・．これらは，全般的な知的発達の問題でも，環境が直接の原因でもない．その背景には，認知（情報処理）過程，つまり，情報を「受けとめ，整理し，関係づけ，表出する過程」のどこかに十分機能しないところがあることが推定されている．このような認知過程の部分的な障害であるため，学習面での得手・不得手の差が大きく，また各々現れる状態像が一様でないゆえ気づかれにくい．

ＬＤへの支援を考える

ＬＤの子どもの中には，見て理解すること（視覚的に情報を処理すること）は得意でも，聞いて理解すること（聴覚的に情報を処理すること）が苦手な子もいれば，その逆の傾向を示す子もいる．

視覚的に情報を処理することが得意な子どもは，ことばによる説明だけではよく理解できなかったとしても，その内容を絵や実物で示してもらったり，実演してもらうとすぐに理解できる場合がある．逆に聴覚的に情報を処理することが得意な子どもは，見ただけではどう手をつけたらよいかわからない場合でも，ことばによって一つ一つ説明してもらうと理解できたりする．

すなわち，一見，子どもの方に理解が難しい様子が見て取れても，理解してもらいたい内容の提示の仕方を変えることで，理解が促せることも多い．“聴覚的に情報を処理することが得意な子ども”には，「絵よりもことばでの説明」「言語的・逐次的な説明」が有効である．例えば，「一つめには〇〇をします．二つめには△△をします」というような継次的な説明が入りやすかったりする．このような子どもの場合，視覚的な情報を自分で的確に分析することが難しいので，情報を言語化してあげる（ことばにし直す）のもよい．

一方，“視覚的に情報を処理することが得意な子ども”には，「ことばより絵による説明」が有効である．ことばで詳しく説明するよりも，完成したものを見せてしまって，「今日はこういうことをします」と伝えた方が，子ども自身も全体的な把握が促され，何をすべきか把握しやすくなるであろう．

日頃の子どもの様子をよく観察し，子どもがどのようなタイプか，どのようなやり方を得意とするかをまずはおさえる必要がある．それを行ったうえで，次の段階として，子どもが「わからない」という様子をみせたときには，別の方法で提示した場合にはどうかを再度考えてみることが重要である．

ＬＤの子どもたちのために，通常の学級の中でできること

通常の学級の中では，ＬＤの子どもの他にも多くの子どもたちがおり，なかなか一人についてじっくりかかわるという機会をもつことが難しい．そこで，クラス全体を運営しつつ考えられるＬＤへの支援を挙げてみたい．

◆指示を出すときには，具体的に，短いことばで行う．
　また，ことばによる指示だけでなく，視覚的な援助（例:黒板に書く，具体物を使う）も併用する．

◆板書をする際，たくさん書かない（例：ワークシートにし，キーワードのみ書き込めばよいようにする）．
　また，どういう順序で授業が進んでいるか（後から黒板を見て理解できるように）書く方向を決めておく．

◆子どもが書くときの支援として，大きめのマスを用意しておく（このとき，特定の子どもに対してのみ用意するのではなく，誰でも使いたい子どもは自由に使えるようにしておくなどの配慮も必要）．
　プリントなども，事前に罫線を引いておく．特に筆算などは罫線やマス目が用意されていると効果的．

◆座席の位置については，教師がいつも気にかけられるような位置にする．

◆活動にあたっては，いくつか選択肢を用意しておき，その中から本人に選んでもらう．
　自分で選んだ活動をしっかり取り組めるよう約束する．

◆本人に適した目標を設定する．目標はわかりやすく，しぼることが大切．

◆本人が認められる機会をつくる．例えば，勉強面では難しくても，係り活動でがんばっている様子がみられれば，それをクラスの中で積極的に評価していく．

これらの支援･配慮は，ＬＤの子どもだけでなく，まわりの多くの子どもたちにも通じるものである．